

市長の政治姿勢について安全保障法案について伺います。

8月30日、全国で取り組まれた安保法案の廃案と安倍政権の退陣を求める総がかり行動実行委員会主催の集会は、国会周辺で12万人、全国各地1000カ所以上で開催される一大抗議行動となりました。

参議院に移された法案審議では、95回も中断するなどボロボロになっています。

法案は、参議院での審議を通じて、安倍政権がいよいよ行き詰まり、まともな答弁ができなくなっていることを示しています。

1つには、立法事実が崩壊をしている事です。

ホルムズ海峡の機雷掃海をすとしていた問題では、イランの安保政策責任者が封鎖を否定しています。

安倍首相が、集団的自衛権行使の具体例としてパネルまで持ち出して、説明を行った米軍の艦船が、邦人を輸送する場合に米艦の防護を行う事ができるとすることについて、中谷防衛大臣が「邦人が乗船しているかどうかは絶対的条件ではない。」と言うなど集団的自衛権の具体例がことごとく崩れ去り、立法事実を国民に説明できなく

なっています。

2つには、この法案が自衛隊の軍事行動について「歯止め」を持たないことが明らかになってきました。

米軍等への自衛隊の兵たんでは、非人道的兵器であるクラスター弾、劣化ウラン弾、毒ガス兵器、はては、核兵器に至るまで法律上は輸送できるというものです。

第3には、米軍の指揮下での自衛隊の暴走が明らかになりました。

我が党の小池晃副委員長が暴露した統合幕僚幹部の内部資料では、米艦防護の「ROE(交戦規定)」の策定、「軍軍間の調整所」の設置、法成立を前提とした南スーダンPKO（国連平和維持活動）の行動拡大が記されています。

国民も国会もそっちのけにして暴走する安倍内閣の進める安保法案は廃案とすべきものです。

福山市は、憲法を順守する立場からも、問題がある安保法案に反対の声を上げる事、国に対し廃案を求める意見書をあげる事を求め

るものです。

ご所見をお示しく下さい。

答弁【市長】

高木議員のご質問にお答えいたします。

初めに、安全保障法案についてであります。

我が国の今日の繁栄と平和を築くことができたのは、平和の理念を明記した憲法が大きな役割を果たしているものと考えております。

国においては、平和の精神を尊重し、国民の生命と生活の安全を基底とした議論が尽くされるよう願うものであります。

以上